

樺太森林植物の分布に就きて

三 宅 勉

ON THE DISTRIBUTION OF FOREST TREES IN KARAFUTO (SAGHALIN).

BY

TSUTOME MIYAKE, *Nogakushi.*

樺太の植物に就きては、既にシユミット氏の公にせられしものありて、陸上植物の種類及び其分布に就きての記載詳細を極め、又樹種に就きてはマキシモウチ氏の *Primitiae Florae Amurensis* 中に略記せらるゝありと雖も、未だ本邦に於ては其種類分布等に就き記載せるものあるを知らず、唯、蝦夷草木圖説中に樺太植物の記るされたるものはあるは、嘗て白井理學士の東京植物學雜誌上に記せられたるが如し。日露戦争の結果、樺太南半島の我領土に歸するや、樺太民政署は同島拓殖開發上、其植物を調査すべき必要を認め、理學博士宮部金吾氏に其調査を囑托し、予亦其補助を命ぜらる。乃ち明治三十九年七月宮部博士は農學士宮城鐵夫氏を伴はれ、同島東西沿岸に就き、海藻及び陸上植物の調査に従事せられ、或は東北テルペニヤ半島に、或は南方シレトコ、ノトロの兩半島に、或は北して西海岸ビレオ、アモベシ等の國境附近に採集を試みられ、二箇月の間沿岸各地に於ける植物の種類、及び其分布に就き親しく調査せらるゝ所ありたり。宮部博士の調査に従事せらるるに先つこと一箇月、即ち同年六月予は同地に至り同年十月に至る五箇月

間南方コルサコフ。メレヤ附近よりナイブチ、ススヤの平原、マウカ、クスンナイの西海岸、及び東海岸の中部一帯、タライカ、ボロナイ川附近、及び國境中央部に採集を試みしが、猶ほ、未調査の地あるを以て、樺太廳より再び調査を命ぜられ、同四十年五月より十月に至る六ヶ月間、同島の山岳及び西海岸一帯に就き採集を續行せしも、猶ほ調査を完結する能はざりき。三十九年度調査にかかるものは、既に樺太民政署より樺太植物調査概報と題し公にせらるるところあり。四十年度に於けるものは既に同廳に提出せり。今茲に其調査の一部、森林植物の分布に就き略記せんとするも、未だ踏破せざる地多ければ不明の點少からず。マキシモウチ氏及びシユミット氏等の書を参考し之を補ひしと雖も、猶ほ不備の點は勿論、恐らくは誤謬あるを免かれず。調査完結の後を待ちて訂正せむことを期す。

樺太所産森林樹種は總計八十一種(未だ採集せざるもの及び學名不明のものを除去せしを以て、猶ほ四五種の増加を來すべし)にして、針葉樹八種、闊葉樹七十三種よりなり。而して内喬小木の總數は三十二なりとす。

樺太所産針葉樹種中、特に注意すべき重要なものにして各地に主なる林相を構成せるものは其數に於て多からず。即ち、クイマツ、エゾマツ、トドマツの三種とす。而してエゾマツ、トドマツの混淆林は山岳中腹以下に多く、其他到る處之を見ざることなし。グイマツは前者と異なり、主として濕地に生育し、西海岸の大部、及びノトロ半島を除くの外、隨所に群生して純林を形成す。ビヤクシン屬は主に海岸の砂礫地、岩石上並に内地森林内に於て匍匐狀をなして繁茂し、高さ三尺を超ゆるものなし。イチサは南部地方に於ては稍大形なるものを認むると雖も、北方に進むに従ひ其高さを漸減し、遂に灌木の狀態を呈するに至る。但し、其大なるものに至りても高さ丈餘直徑尺餘に達するものは極めて稀なり。

其分布區域を見るに西海岸に於ては遠く國境附近に到ると雖も、東海岸にてはマクシコタン以北に生育せるものあるを見ず。而して中央以南の地に於ては他樹の間に介在するを常とす。次にハヒマツは普通山岳の高所に生ずるものなれどもマヌエ、シララカ、ドブキ附近にては海岸に盛に繁茂し、大泊附近に於ては海岸より内地に入ること一里内外の地に生ず。其他北方ツンドラ地方にては處々に叢生し、西海岸に於ても内地に入ること約二里にして此樹を認むることを得。更に山脉に至りては殆んど常に存在するものなり。如斯ハヒマツの分布は廣しと雖も、經濟的に觀察するときは、同島森林樹種中價值あるものとして認むること能はざるものなり。

更に同島濶葉樹種を検するに、喬木二十種、小木八種、灌木四十一種、蔓木四種ありて各處に散生し、未だ純林或は兩三種よりなれる混淆林の存在せるを見ず。只往々シラカンバの針葉樹林間に群生するもの、並にカラフトカンバの他樹を混ぜざるものありと雖も、其面積甚だ大ならずして未だ容易に純林と稱すること能はざるものなり。而してドロは北方各地の河川に沿ふて帶をなして生育するを常とするも深く内地に入らず。尙ほ西海岸の南部濶葉樹に富める地方に於ては、濶葉樹の海岸に近き傾斜地に群生せるものあるも、常に多少の針葉樹を混生し、純然たる濶葉樹林と稱することを得ず、只僅に山地に於て針葉樹林將に其跡を絶たんとするの處、エゾダケカンバの大樹群生し、此處に濶葉樹帶を形成するに過ぎざるなり。

今、各樹種の分布を略記せんに、ドロは好んで河川の流域に生育し、北部地方に其數多く南部に於て少なし、是れ或は往時土人の伐採せるか、又は山火の爲めに焼失せるかに原因するものなるべきか。柳屬も亦各地河川沿岸卑濕の地に多く生育し、ナガバヤナギの一種の外は、總て小木にして特に算するに足らざるものなり。而してヤマナラシは前種と異なり、多く乾燥地を好み同島各

所に散生す。エゾダケカンバはシラカンバと共に平野に混生し、或は山地針葉樹の盡きたる處に大樹多く、低山脉の山嶺は凡て之を以て被はるること常に目睹する處なり、而してハヒマツの生育帶に入れば漸次矮小となり、遂に全く見る能はざるに至る。ハンノキ類は一般に河邊及び濕地を好みて生育し、北海道に於てヤチバンノキの繁茂すべき地勢の箇所にも、樺太に於ては其影をも認むること能はずして、北海道に於て山地に生ずるを常とするケヤマハンノキ反りて之に代りて生育す。ミヤマハンノキも亦海濱より内地隨所に生じ、高山に至りてハヒマツ帶に入り漸次矮小となる。次にアカダモ、ヤチダモは専ら肥沃にして稍濕潤なる平野、並に河岸にて寒風に暴露せられざる地を好み、高さ數丈直徑三尺に至るもの敢て少なしとせず。特にヤチダモは西海岸の河谷肥沃なる地に多く、マウカ以南に於ては沿岸の草原地に、他の濶葉樹と混生するを常とす。センノキ、ヤマザクラは此等の地方に於て沿岸に群生しありて、海馬島及びマウカ以南の地に生ずるキハダ及びクハ等は加ふるときは南方濶葉樹種の大部を占むるものなり。而して此等の樹種はクスンナイ以北、及びアニワ灣内、東海岸等の何れの地に於ても生育せるものあるを見ず。

以上記せる處を以て樺太の平地に於ける森林植物帶を察するに、大別して三區とするを得べきか。即ち一はマウカ附近を中心とせる南方濶葉樹帶にしてセンノキ、キハダ、ヤマザクラ等は其の代表者たるべく、二は全島の大部を占むるエゾマツ、トドマツの生ずる針葉樹帶にして、海岸より起りて山嶽の中腹に至るもの、三はグイマツの占むる所にして濕潤針葉樹帶とも稱すべき部分にして、蘚苔多く生育し北方國境附近に至る。

更に山地に就て之を見るに其樹木の生育の狀態及び其種類によりて垂直的に大約五帶となすを得べきか。即ち第一、下層濶葉樹帶、第二、針葉樹帶、第三、上層濶葉樹帶、第四、ハヒマツ帶、

第五、高山草原帶の五帶となす。

第一帶は山麓溪谷多き地にして、潤葉樹其多數を占め針葉樹其間に介在す。ハンノキ、オガラバナ、ヤナギ、イタヤ、ドロ、アカダモ等是が代表者たり。第二帶はトドマツ、エゾマツの混淆林を以て形成せられきエゾダケカンバを以て代表せらる。第三帶上層潤葉樹帶に移る、此帶に於けるエゾダケカンバは直徑尺餘に至り、高さ數丈に及ぶもの甚だ多く、樹下には矮小なるクロウスゴ、マルバシモツケ、ミヤマナナカマド、ミヤマハンノキ、オガラバナ等の叢生せるを認む。此帶に次て第四帶ハヒマツ帶現はる、ハヒマツは下方に於ては高さ丈餘に達するものありと雖も、上昇するに従ひて其高さを漸減し、遂に地上に匍匐するに至る。是に於て此帶は盡きガンカウラン、チシマゼキシヤウ、キバナノシヤクナゲ、チシマラツキヤウ、チシマニンジン、チシマギキヤウ等繁茂し、所謂第五高山草原帶をなす。

以上記するが如き諸帶の分類は、シユミット氏著樺太植物誌、及び昨年度南部樺太森林調査書中オチンボカ山に於ける調査等に徴するも略ほ同一の状態にして、大過なきを信ず。されど自ら踏破して調査せる山岳極めて少なく、只僅にススヤ、ノタサンの一峯、スプリボ、ウシロの諸山に過ぎず。且つ地勢、山脈の方向並に風位等の異なるに従つて多少の變化を來すを以て、今茲に概論せるものと雖も、或は全く吻合せざるものなきを保せず、斯の如きは更に將來の調査を待ちて詳述する所あらんと欲す。

猶ほ各樹種に就き記する所あらんとせしも、調査未だ完く了らざるを以て之を略し、唯其主もなるものゝ名稱を記し、其分布を略記し之に換へたり。余等の未だ採集せざるものにして、シユツト氏樺太植物誌に掲ぐるものは之を加へ、*を附して分てり。

終に臨み、本稿起草に關し宮部博士の懇篤なる助言、及び伊藤誠哉氏の種々なる助力を與へられたる厚意を深謝す。

樺太森林植物目録

A List of Forest Trees in Karafuto.

Fam. *Taxaceae*. 一位科。

1. *Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc. オンコ、イチキ、(Raramani.)

西海岸、アニワ湾内、ス、ヤ山脈及び東海岸南部に生ず。

Fam. *Pinaceae*. 松杉科。

2. *Larix dahurica* Turcz. グイマツ、(Kui.)

東北地方アニワ湾内東部方面湿地に多し。

3. *Picea ajanensis* Fisch. エゾマツ、(Shungu.)

トドマツと混生し山頂及び湿地を除くの外隨所に多く海馬島の一部にも生ぜり。

- *4. *Picea Glehni* Mast. アカエゾマツ、

グン、レ氏はチピサニ、ルートカに於て初めて採集せられし事シユニツ氏の著樺太植物誌に見ゆ。

5. *Abies sachalinensis* Mast. トマツ、(Yayoppu.)

エゾマツと混生して到る處に生ぜり。

6. *Pinus pumila* Pall. ハヒマツ、(Numni.)

山頂、ツンドラ及び寒風に曝露せる處等に廣く生ず。

7. *Juniperus dahurica* Pall. ハヒビヤクシン、

各地海邊或は岩石上に匍匐して生じ高さ三尺を超へず。

8. *Juniperus nana* Willd. リシリビヤクシン、(Aimaini.)

各地樹林中に生じ匍匐す。

9. *Juniperus conferta* Parl. ハヒネズ、(Wittani.)

西海岸海濱砂地に生じ匍匐す。

Fam. *Salicaceae*. 楊柳科。

10. *Populus suaveolens* Fisch. ドロヤナギ、

各地河川沿岸に多く生じ北方に至るに従ひて大樹を産す。

11. *Populus tremula* L. ハコヤナギ、

各地乾燥地に生ず、其數多からず。

12. *Salix Caprea* L. バツコヤナギ、(Meremani), (Menemani).

各地山地に生ず。

13. *Salix opaca* Anders. ナガバヤナギ、(Susu.)

河岸隨所に生ず、大樹多し。

14. *Salix viminalis* L. キシヤナギ、(Susu.)

各地河岸に生ず。

Fam. **Juglandaceae.** 胡桃科。

15. *Juglans Sieboldiana* Maxim.? オニグルミ?

ナイブチ川沿岸の一部に生ず極めて少數なり。

Fam. **Betulaceae.** 樺木科。

16. *Betula alba* L. シラカンバ、(Tatni), (Tachni).

各地山野に生ず。

17. *Betula Ermani* Cham. エゾダケカンバ、(Shiitat.)

各地山地に生ず。

18. *Betula Middendorffii* Trautv. et Mey. var. *communis* Trautv.

ポロナイカンバ、(宮部博士新稱)

國境附近山地に生ず。

19. *Betula nana* L. var. *sibirica* Ledeb. ヒメカンバ、(全上)

北方[ツンドラ]上に生ず。

20. *Alnus hirsuta* Turcz. ケヤマハンキ、(Furū-kini), (Kini).

各地平野、河岸濕地に生ず。

21. *Alnus viridis* DC. var. *sibirica* Reg. ミヤマハンノキ、(Tetara-kini.)
(Kini.)

各地に生じ、又高山に生ず。ハヒマツ帶に入りエゾダケカンバ、ミヤマナハカマド等と混生ず。

Fam. **Fagaceae.** 殼斗科。

22. *Quercus mongolica* Fisch. カラフトカシハ, (Tunni.)
(宮部博士新稱)

海岸に多し、東海岸中部以北に無し、

23. *Quercus grosseserrata* Bl. ミヅナラ、
前者に同じ。

Fam. **Ulmaceae.** 榆科。

24. *Ulmus campestris* L. アカダモ, (Karani.)
各地平野及び河岸の沃地に多し。

25. *Ulmus montana* With. var. *laciniata* Trautv. オヒヨウダモ, (Atni.)
(Ahhani.)

各地山野に生ず。

Fam. **Moraceae.** 桑科。

26. *Morus alba* L. クハ, (Tattuni.)

海馬島及び西海岸の南方一部に生ず。

Fam. **Saxifragaceae.** 虎耳草科。

27. *Hydrangea paniculata* Sieb. et Zucc. サビタ、ノリノキ, (Kinneni.)
南方各地森林内に生ず。

Fam. **Rosaceae.** 薔薇科。

28. *Pirus baccata* L. var. *mandshurica* Maxim. カラフトズミ、
南方各地に見ゆ特に河口附近及び海岸に生ず。

29. *Sorbus japonica* T. Hedlund. ナ、カマド, (Inaunini.)
各地に生ず。

30. *Sorbus sambucifolia* Trautv. ミヤマナ、カマド、
各地山野並に高山山頂に生ず。

31. *Crataegus sanguinea* Pall.? カラフトサンザシ, (Unseni.)
(宮部博士新稱) (Unchuni.)

各地山野に生ず。

32. *Prunus Maximowiczii* Rupr. ミヤマザクラ、シロザクラ。
各所の山地に多し。

33. *Prunus Pseudo-Cerasus* Lindl. ヤマザクラ, (Karimbani.)

西海岸南部沿海の地にあり。

34. *Prunus Padus* L. エゾノウハミヅザクラ. (Kikinni.)

各所河岸の地に生ず。

36. *Prunus Ssiori* Fr. Schm. シウリザクラ, (Shiuri.)

全 上。

Fam. **Rutaceae.** 芸香科。

36. *Phellodendron amurensis* Rupr. キハダ, (Shikerebeni.)

西海岸南部及び海馬島に産す。

Fam. **Celastraceae.** 衛矛科。

37. *Evonymus alata* Sieb. var. *striata* Mak. コマユミ,

西海岸南部に生ず。

38. *Evonymus macroptera* Rupr. ヒロハノツリバナ, (Konkeni.)

隨所に生ず。

39. *Evonymus sachalinensis* Maxim. ムラサキツリバナ, (Enumukonkeni.)

全 上。

40. *Evonymus Hamiltoniana* Wall. マユミ. (Kashupuni.)

全 上。

41. *Celastrus articulata* Thunb. ツルウメモドキ,

南部平野に生ず。

Fam. **Aceraceae.** 槭樹科。

42. *Acer pictum* Maxim. イタヤ, (Nishiteni.)

各地に産す。

43. *Acer Ukurunduense* Trautv. et Mey. オガラバナ, (Tobeni.)

各地山地に多し。

Fam. **Araliaceae.** 五加科。

44. *Acanthopanax senticosus* Harms. エゾウコギ, (Mauni), (Epusakani.)

西海岸, アニワ 灣及び東海岸の中部以南に生ず。

45. *Acanthopanax ricinifolium* Seem. ハリギリ、センノキ、(Aiushini.)

西海岸南部の海岸に生ず。

Fam. **Oleaceae.** 木犀科。

46. *Fraxinus mandshurica* Rupr. ヤチダモ、(Opeu), (Itatosu).

西海岸、アニウ湾内の河川流域各所に生ず。

Fam. **Caprifoliaceae.** 忍冬科。

47. *Sambucus racemosa* L. var. *pubescens* Miq. コブノキ、(Osokoni.)

各地山野に生ず。

48. *Viburnum furcatum* Bl. ムシカリ、(Habituni.)

南方各地山野に在り。

因記、表中和名の右括弧内の文字は樺太アイヌ名なり。

Note.—The word in parenthesis is the plant name given by the Saghalin Ainu.